

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら(ユニット1)		
所在地	北海道雨竜郡秩父別町1542番地33		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 11 月 16 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0197400013-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0197400013-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻布町3丁目5-5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2つのユニットがあり利用者は、いつでも行き来が出来、廊下を散歩したり、顔馴染みの方といつでも会話を楽しむことが出来、一緒に歌やレクリエーションを行っています。一人ひとりの出来る事、出来ない事を見極めながら台所の片付けを負担にならないよう工夫をし、季節行事に合わせ節分には利用者と一緒に恵方巻き作りやお彼岸にはおはぎ作りなど楽しみと味を楽しみ、役割を持ちながら生きがいのある生活が送れるよう支援しています。天気の良い日は、近所の散歩に出かけたり、また、春には町外の桜や菜の花や欄の展示会にドライブに出かけ外食を楽しんでいます。地域交流として毎年地元のお祭りの獅子舞がホームまで来られ隣の施設利用者様達と一緒に見学したり、地域の敬老会に出席したり、中学生が来訪して中学生の出し物の見学後レクリエーションや歌と一緒にしています。また、保育園児にホームに来ていただきお遊戯を見学し楽しんでいます。ご家族との交流として夏祭りを行いご家族と利用者様が楽しみながら交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は秩父別町の中心部に近い閑静な住宅街に位置し、近くには役場、商店、温泉、中学校等があり、居住環境に恵まれている。木造平屋建ての居間・食堂は一体的で広く、ぬり絵、折り紙などの利用者の作品や季節の花が飾られ、温かい家庭的な雰囲気の中で、職員は明るく親身に利用者に対応し、利用者は長い廊下を利用して歩行訓練をしたり、ユニット合同でレクリエーション等を行って利用者同士の交流と機能訓練に繋げている。例年、利用者は地域の祭りや敬老会等の地域行事に参加したり、中学生や保育園児が来訪して一緒に歌を歌ったり、お遊戯を見せてくれたり定期的に交流している。又、べにばら祭りなどの事業所行事には家族や地域住民、ボランティア等も参加して交流を深めている。今年度は祭りの獅子舞が事業所を訪問して利用者を楽しませくれたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のためほとんどの交流事業を中止し、べにばらだよりを町内に回覧して事業所の様子を知らせている。又、家族の面会も制限されるため、毎月家族に利用者の様子を“べにばら通信”で知らせ利用者・家族の安心に繋げている。理事長は自ら事業所を巡回し利用者の声、職員の意見、要望を聞き運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とべにばら理念を各ユニットに提示し、基本的な価値観を共感している。	法人の理念、事業所理念(住み慣れた街で、その人らしく)を職員で共有するため各ユニットに掲示し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の床屋さんに一ヶ月半に一度来て頂いたり、毎年一度認定幼稚園の園児をホームで送り迎えしお遊戯を披露して頂いたり、中学生の「生き方を考える」総合学習では、受け入れをし利用者と一緒にレクリエーションなど行った。	例年、利用者は地域の祭りや敬老会等の地域行事に参加したり、中学生や保育園児が来訪して一緒に歌を歌ったり、お遊戯を見せてくれたり定期的に交流している。今年度は祭りの獅子舞が事業所を訪問してくれたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のためほとんどの交流事業を中止した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では、役場依頼で認知症サポーター講座を行っている。地域ケア会議に出席し認知症の症状の利用者についての事例など提供した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価の取り組みを報告している。議題を上げて意見を出して頂けるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、利用者代表、家族、地域住民代表、民生委員、町職員等が出席して利用者の状況、研修報告、活動報告や運営状況を話し合い、意見や、助言を得てサービス向上に活かしている。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため開催を中止している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と、日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、現在の地域の現状などを提供して頂き、協力関係を築いている。	町担当者に運営状況や新型コロナウイルス感染症の感染防止対策等について報告し、指導助言を得ている。地域ケア会議に参加し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関は施錠しているが、定期的なアセスメントやカンファレンスで話し合い利用者一人ひとりに合ったケアや、身体拘束廃止の指針に沿ったケアに努め、定期的に身体拘束会議を行い、毎年、身体拘束廃止目標を立て取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、委員会終了後に、身体拘束廃止目標「スピーチロックゼロを目指して」研修会を開催し、身体拘束をしないケアに努めている。SOSネットワーク(役場、警察等)で地域との協力関係を築いている。夜間のみ防犯のため玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ勉強会等、虐待について学び知識・理解を深めている。虐待防止の自己評価を定期的に行い、職員間でも注意し合いながら防止に努めている。		

グループホームべにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格習得時やスタッフ勉強会で勉強した。勉強会では以前、成年後見人を利用していただいていた利用者様の時の具体的な話を取り入れ分かりやすく話をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、家族や利用者の不安や疑問点がないか伺い十分に理解、納得を図れるよう努め。パンフレットの他に入所時に必要な物などを文書して面接時にお渡ししている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今現在、感染症により利用者のご家族が十分にコミュニケーションが取れない中、毎月ご家族に面会について御理解頂けるようお手紙や電話対応など感染症の状況をみながら対応している。	日常の会話などから利用者の意見・要望の把握に努め、家族とは毎月利用者の状況をべにばら通信や手紙、電話などで知らせて意見、要望を聞いている。家族とは感染防止対策を行って短時間面会を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、個人面談を行い職員の意見を聞き、その結果を会議にて職員に報告している。	管理者は、職員が意見・要望を言いやすい雰囲気である。理事長による個人面談、ユニット会議、全体会議で意見・要望を検討し運営に反映させている。理事長は事業所を巡回して利用者の声、職員の意見・要望をくみ取るよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自から要望や意見を聞く機会を設け、労働時間の要望や条件を聞き入れ働きやすい環境に努めている。また、交流会などの機会を設け各ユニット状況や意見交換の機会が出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部職員の内部外の研修が多かったが、出張講座を利用したり、同町内の他施設研修に出席を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内施設で行われた口腔ケア講習会に職員が参加したり、ホームでの出張講座時に同事業所の職員も参加しメンタルヘルスについて講習を受けサービスの向上とメンタルにも気をつけている。		

グループホームべにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行いご家族からご本人の情報提供など参考にし、本人の不安や求めている事を傾聴し要望に対応出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人と一緒に見学に来て頂いたり、ご家族の困っていることや不安が軽減出来るよう傾聴し事前に情報収集を行い、コミュニケーションをはかり関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の必要としている支援が受けることが出来るように訪問時の情報提供や身体状況を見極め支援できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事はして頂き、時には家事と一緒に生活と共に過ごし普段の会話の中でご本人の気持ちを踏まえ支え合える様関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今現在、感染症の為毎月ご家族にお手紙にて面会制限の協力して頂いている中、電話で連絡を取り消耗品の購入を依頼し近況状況を報告しながら共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在、感染症でご家族や知人など面会制限や地域の敬老会が中止になり交流が取りにくいのが、馴染みの病院受診時に知人に会い笑顔で会話されています。	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、家族、知人の面会を制限しているが、感染防止対策を行った上で、馴染みの床屋が来訪している。また、知人から野菜が届けられたり、病院受診時に知人と会話をするなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性などを把握し席替えやご本人の要望でユニットの移動など良い関係が持てるよう努めている。		

グループホームベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の状態や近況等をお会いした時に伺ったり、悲報時はお参りをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話を通じて利用者の意向を伺いカンファレンス時には本人本位のケアが出来るように検討している。	入居時の利用者・家族からの聞き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握し、日常生活でのしぐさ、動きなどから個々の思いや意向を把握して、連絡ノートで職員で共有し、希望や意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、ご家族やケアマネジャーに入所前の情報提供を頂き、情報収集をし経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自分のペースで生活出来る様に支援し、活動内容を記入し現状の把握し職員同士共有出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望を検討し本人の心身状態に合った対応が出来るよう全スタッフと話し合い現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づき等も参考に全体会議で話し合い、4ヶ月毎に介護計画を作成して家族に説明して確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個人記録に行動言語、気づきなど記入し又、連絡ノートで情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応して、家族関係者と話し合いながら、支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児のお遊戯や町内のお祭りの獅子舞など毎年、ホームに来訪して頂き見学し楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人が、今までのかかりつけの医療機関や、ご家族に相談し納得の得た医療を受けられるように支援し、遠方へご家族対応で受診されている方も居られます。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員が同行し、結果を家族に知らせている。病状により家族も同行する事もある。	

グループホームベにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックやいつもと違う様子など、変化に気づいた時には看護師に相談し、服薬状況など把握しながら受診時に医師に相談し適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。今現在は、感染症により面会出来ない為、医療機関地域連携室より、近況状況など報告して頂き、相談等を行い、退院を含め今後の方向性について話し合い早期に退院出来る様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に重度化や入居時のリスク説明し十分理解して頂いている。また、普段からご家族近況の報告等行いご家族とご本人にとって良い方法を話し合い相談に応じて施設紹介などの対応をしている。	契約時に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し同意を得ている。重度化が認められた段階で本人・家族に説明し、「重度化支援に関する意向の確認書」を作成し、方針を共有して医師と連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講を定期的にするにしている。急変時には看護師より指示を受けたり、事故発生時などお互いのユニットで協力仕合たり、コードレス電話導入により消防署等の連絡がスムーズに行える様になった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。災害対策では避難方法をマニュアルし、停電時には、協力しあえた。ご家族には、避難所案内を交付し、地域ケア会議では地域での災害についての話し合いに参加した。	年2回消防署職員が立会して、避難訓練(日中想定)を行っている。「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引き」を参考に非常災害対策計画を策定している。	非常用資機材の備蓄品リストを作成し、食料及び防災資機材等リストアップして災害に備えている。食料など消費期限があるものや暖房設備の燃料について季節ごとに必要量が確保されているかなど、備蓄品について定期的に点検することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格の尊重、プライバシーの配慮を大切にし、日々の声かけや接し方など意識し対応している。 トイレ・脱衣所では、戸を開けても直ぐ中が見えないようにカーテンを設置し配慮している。	一人ひとりの気持ちを大切に、トイレ誘導時は他の人に気づかれないように、さりげなく小声で伝える等、プライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いや希望を表現出来るような言葉掛けや信頼関係づくりに努め、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルを大切に、その人らしい暮らしを送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後等、鏡で身だしなみを整えたり、ご自分で服を選べるような環境づくりに取り組んでいる。		

グループホームべにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事形態を把握し、季節に合わせた恵方巻やおはぎ作りを一緒に作ったり、後片付けを行う等、家事と一緒に食事や季節も楽しみになるよう支援している。	利用者の希望を取り入れながら、ユニット毎に献立を作り職員が調理している。利用者は能力に応じ職員と一緒に、調理補助や茶わんふき、後片付けをしたり、節分には恵方巻、お彼岸にはおはぎ作りをしている。近隣の住民から届いたスイカをおやつにしたり、枝豆で豆ごはんを作って季節を感じながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や形態の把握や水分量を記録し少ない時には水分の促しを行い、一日の栄養・水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝時に必ず口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、言葉掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の自立に向け支援し、一人ひとりの力に合わせ居室内にポータブルトイレを設置し対応している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情や態度に気をつけながら適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動など、個々に合った状態で便秘予防に取り組んでおり、乳製品などの提供を行い、排便状況の把握し下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は決まっているが、希望に応じ入浴して頂き、希望されない方には、清拭など清潔保持に努めている。	その日の体調や希望に合わせて週2~3回入浴し職員と会話を楽しんでいる。入浴拒否者には、無理じいせず清拭などで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や馴染みの寝具等を大切に、いつでも自由に休息したり、安心してよく眠れるよう不穏時には傾聴し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用は、施設内看護師が常に一人ひとり調べ、病状の変化の確認をし職員に周知し。職員は、服薬が分かるようチェック表を作成し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり特技や楽しみ、嗜好品などを把握し個人ケアに努めている。また、張り合いのあるレクリエーションの提供や外出したい時など要望に応じ、気分転換に外気浴の支援に努めている。		

グループホームべにばら(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在は、感染症により花見やドライブ等は、控えているが、天候に応じて、外気浴や町内の近くの買い物にお誘いしたり、町内に限りお盆のお墓参りなどご家族の要望を聞き入れながら外出支援している。	天気の良い日は散歩をしたり、外気浴を楽しんでいる。例年行っていた季節に応じた花見(桜・菜の花)や欄フェスタなどへの外出は今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため中止した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望とご家族の希望も聞き入れお小遣いをお預かりしています。必要時にはお渡しし、受診日の外出時に買い物の見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には、どこでも話せるようコードレス電話を購入した。贈り物が届いた時は、電話でお礼をしたり手紙を書いて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りを利用者と一緒に制作したり、花を飾ったり季節を感じられるよう努めている。広いホールにある畳の所では、洗濯物を座りながら出来るよう作業場になっている。また、一日一回各居室や共有のホール内の温度・湿度のチェック表で管理し必要に応じて換気や湿度を保てる様にしている。	居間・食堂は一体的で広く、温・湿度も心地よく過ごせるよう管理され、利用者の作品(ぬり絵・折り紙等)、季節の花を飾って家庭的な雰囲気である。利用者は歌を歌ったり、パズル、折り紙、テレビを見るなど、思い思いのことで居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間や気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように居場所の工夫や利用者間の相性など踏まえ配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものなど相談しながら居心地良く過ごせるように努めている。仏壇など用意されている方も居られお寺様やご家族様もお参りされています。また、ご本人の希望によりユニットの移動をされた方も居られます。	使い慣れたテレビ、家具、仏壇などが置かれ、ぬり絵や家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内の手すりや全居室に電動ベッドし、利用者にあったベッド高さや手すりが付いていることにより臨床時の行動がスムーズに行えるようになった。トイレの場所が分かりやすいよう大きな字で表示し隣の利用者が来てもスムーズに誘導出来ている。		